

文化庁次長

杉浦 久弘 様

要 望 書

令和5年6月5日

長野市議会新友会

要 望 書

平素は、当市の行財政運営につきまして、格別なるご指導、ご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当市は地方中核都市としての役割を担いつつ、人口減少、高齢化が進む中で、心と体の健康のみならず、社会の健全性を含む広い概念の「健康」が維持され、幸せを実感できる「健幸増進都市・長野」の実現に向けて取り組んでおり、子育て・教育の充実、スポーツを軸としたまちづくり、地域の特色を活かしたバイオマス産業を推進し、環境にやさしく災害に強いまちづくりなどに取り組んでいるところです。

しかし、当市は、現在も令和元年東日本台風災害からの復興の途上にあり、加えて、新型コロナウイルス感染症の「5類」への変更に伴う医療体制の整備や市内経済及び地域コミュニティの回復のほか、市民生活等に大きな影響を与えている原油高・燃料高・物価の高騰への対応など、市政運営において喫緊の課題が山積しています。

つきましては、本市の未来を見据えた更なるご支援いただきたく要望いたします。何卒格段の御高配を賜りますようお願い申し上げます。

令和5年6月5日

長野市議会新友会 会長 三井 経光

要 望 事 項

1 史跡等保存整備事業費の拡充について

本市には、「松代城跡」や「大室古墳群」をはじめとする松代地区の史跡や、善光寺、戸隠など、数多くの文化財が現存する。

このうち、松代城跡では、生涯学習や観光の拠点として活用するため、調査に基づく往時の城郭景観整備を、また日本最大の積石塚古墳群である大室古墳群では、多様な埋葬施設を見学できるよう、保存修理や環境整備を進めている。

いずれも、計画的な事業遂行に努めているが、財源確保に課題があり、計画に遅れが生じている。

近年、文化財には地域の観光資源やまちづくりの拠点としての役割が期待されている。今後も戦略的に史跡等を保存・活用していくため、史跡等の国庫補助金について、より一層の拡充を図っていただきたい。